

第3章 美作市の歴史文化の特性

3-1 美作市の歴史文化の特性

本市は中国山地の山々に抱かれ、中国山地の麓から流れる吉野川、梶並川を幹流とし形成された狭小な谷底平野を中心に人々の生活が営まれてきました。平野に限られるため、人々は厳しくも豊かな中国山地に生活の糧を求めました。特に「山」へ製鉄や木材加工などの資源を求めたことが記録や技術として今日まで伝えられています。また「山」は神聖な場所として、修験道や山林寺院などが盛んに信仰を集めました。そのため、「山」は生活の源であると同時に畏敬の対象となりました。



写真24 後山遠景

また本市は、山陽と山陰をつなぐ交通の要衝として、様々な地域と交流がありました。古くは弥生時代の遺跡から讃岐や瀬戸内、山陰、近畿地方の出土遺物が確認されています。山間の地域でありながらも、交通網周辺に古墳の築造や古代寺院の建立が確認されています。また古代から中世にかけて、中央の貴族や皇族が本市を通過したことが、記録や地域の伝承として伝えられています。近世には、街道として因幡街道、出雲街道が街道と

して整備され、高瀬舟を利用した水運も盛んに行われました。

山の豊富な恵みを得られることと、交通の要衝であったことが今日の美作市を築き上げたと考えられます。現代でも、因幡街道に沿って智頭急行智頭線、鳥取自動車道が建設され、出雲街道に沿って中国自動車道、J R姫新線が建設されており、交通の要衝として引き継がれています。

これらをふまえて本市の歴史文化の特性は

「山間に展開した交通と豊かな自然資源」

と言えます。

美作市の歴史文化の特性を以下の3つの観点でとらえます。

- ・ 人々に製鉄や温泉、木地師など周辺資源を生活の糧とした「美作の生業」
- ・ 修験道や山林寺院など精神的な恵みをもたらした「美作の祈り」
- ・ 物資や人、文化など交通によってもたらされた「美作の道」

3-2 美作の生業

本市では、豊かな自然に生活の糧を求め、製鉄、鉱山、温泉など地下からの資源や、木材を利用した木地師、製茶、茅など地表での資源の恵みを享受してきました。目まぐるしい技術革新によって今日では、廃絶してしまったたたら製鉄の技術や鉱山資源は本市の土地や人々の記憶にとどまっています。一方で製茶や温泉など変わらず生活の糧として、人々に恵みをもたらし続けています。また木地師や茅など先人からの知恵を守り伝えているものもあります。もたらされた恵みによって3つでとらえます。

(1) 地表の恵み

山林に囲まれた本市では、地表の恵みである豊富な木々を轆轤などで加工する職業集団の木地師が活躍していました。木地師は良質の木々を求め数十年単位で移動して生活したとされます。市内には、木地師の技術を今に伝える「木地師の館」があり、現在に技術が継承されています。



写真25 上山の棚田【市】

木々の他には山間の地形を利用した棚田が形成されています。特に上山の棚田は平成15(2003)年に文化庁により岡山県内の文化的景観の重要地域の一つに選定されています。現在は、Iターンや移住者によって復元活動が行われています。後山地区・中谷地区にも棚田が形成されていますが、製鉄材料の原料を得るため砂鉄を含む山を切り崩す鉄穴流しにより形成された地形を利用したものとされます。また良質な茅場として後山の茅場があり、地表に表れた豊富な資源によって本市が形成されたことがわかります。



写真26 湯郷温泉鷺湯

(2) 地中の恵み

本市を代表する観光地として湯郷温泉があります。伝説では第3代天台座主慈覚大師てんだいざすじかくだいし(円仁法師)えんにんほうしによって1,200年前に発見されたとされます。平城宮出土の木簡にも「塩湯郷」の文字があり、古くから温泉が湧き出ていると考えられます。また平安時代の貴族の日記には「かつまだのゆ」として登場し、室町時代の永享10(1438)年には地頭であった後藤氏によって「美作国塩湯郷地頭職掟條々」で温泉の管理についての掟を定めています。

本市を含む中国山地では古くから鉄を多く産出していたことが、発掘調査(下坂遺跡、上相遺跡)や平城宮出土の木簡などからわかっています。また市内各地で金屎と呼ばれる製鉄の際に生じる廃棄物(鉄滓)が多く採集でき、後山のようにたたら製鉄も盛んに行われていたことが記録にも遺っています。

市内には鉄を含めて銅や銀など95か所の鉱山があったとされています。平安時代の「日本霊異記」には、英多郡の鉱山に関する説話があることから、古くから鉄の産地として、時の政権中央部に知られていたことがわかります。

(3) 食の恵み

岡山県を代表する茶として海田茶があります。美作地方で盛んにつくられた美作番茶ですが、もともと真木山中腹にあった長福寺で製茶がされていたことや領主によって製茶が奨励されていたという素地があったためか、海田地区周辺では特に盛んに生産され海田茶は岡山県下でも有数の生産量を誇ります。



写真27 海田茶摘み娘

伝統野菜として日指地区の日指ごぼう、福山地区の万善かぶらなどが今も作られています。他にも天皇陛下献上の和菓子として湯もやが今も湯郷温泉街で販売されています。

3-3 美作の祈り

本市は中国山地に位置し、市域の約8割を森林が占めています。また古代に貴重な資源であった鉄を産出した山への崇拜以外に様々祈りの形を見ることができます。本市の代表的な祈りの形は3つでとらえます。

(1) 古代の祈り

白鳳時代(645年ごろ～710年ごろ)には、美作地方に13の寺院が築られますが、英多郡(古代表記の英田郡)に約半数の6つの寺院跡(土居廃寺跡、竹田廃寺跡、江見廃寺跡、大海廃寺跡、今岡廃寺跡、檜原廃寺跡)が確認されています。岡山県下でひとつの郡に6つの寺院が集中する地域は、英多郡だけであり古代の本市の特徴となっています。寺院以外では古墳時代終末期の野寺山古墳【市】から出土した陶棺に仏教の影響と考えられるレリーフが刻まれており、仏教伝播を示す遺物とされています。



写真28 野寺山古墳出土陶棺
(ColBase(<https://se.nich.go.jp/>))

また檜原上地区字神宿では、美作一宮である中山神社(津山市)との関わりを示す伝説が遺っており、今も東内家では中山神社との関わりを示す矛盾が祀られています。

(2) 山への祈り

本市は市域の多くを森林に占められていることから、山に対しては、生活の源でありながら一方で崇拜の対象であり、修行の場所でもありました。本市には県下最高峰の後山(1,344m)が鎮座しており、西の大峰山として今も多くの修験者が訪れています。後山に代表されるように市内に著名な行場があったことから、市内には、役行者像や石碑、地名など多くの修験道の痕跡を見ることができます。また仏教の修行のため、隔世した場所として山頂や山腹に伽藍を持つ山林寺院も多く、代表的なものとして鎌倉時代に建立された三重塔【国】を持つ真木山長福寺があります。現在は低地へ移転していますが、かつては山号である真木山中腹に大きな伽藍をもつ寺院でした。



写真29 長福寺三重塔【国】

(3) 里の祈り

本市は山で得られた修行の成果を里に還元する動きもみられました。下大谷地区、中谷地区、海田地区では修験者及び僧侶が人々の苦しみを救わんと自ら生きながら墓に入る行為(即身仏、入定)が行われました。また理賢・妙賢2人の法印(行者)は、元禄、享保におこった飢饉を鎮めるための磨崖供養文字や経塚の建立を行いました。明治時代末期から大正時代にかけては、そば粉上人と呼ばれた是空が難病者を救う祈祷師として、日ごろはそば粉のみ食し祈祷の際には自らの指を落とすなどの苦行を課しました。庶民を救済するために尽力した宗教家の足跡が多く遺っています。



写真30 位田の題目岩【市】

3-4 美作の道

本市は、古くから山陽・山陰の中継点として、また畿内から出雲への沿線として人や文物が盛んに往来する地域でした。また近世には高瀬舟による水運が発達し、集積地には多くの文物が行き交っていたことがわかっています。山間部でありながらも交通の要衝として、交流が盛んであったことが、物はもちろん伝統芸能などにも見ることができます。また日本武道を紐解くうえでも流派の創始者に所縁のある地域として、武の系譜をたどることもできることから【美作の道】として設定し3つでとらえます。

(1) 陸の道

市内には、出雲街道、因幡街道と江戸時代に参勤交代で利用された街道が走っています。参勤交代以前にも出雲街道、因幡街道ともに道として利用されていたと考えられます。因幡街道では、平安時代の貴族の日記に加えて、発掘調査によって古代の道路遺構が確認されており、古くから道路として整備されていたことがわかります。街道には「宿」がおかれ、本市では因幡街道大原宿が往時の姿を今に遺しています。今も街道に沿って鉄道のJR姫新線、智頭急行智頭線と高速度道路の中国縦貫自動車道、中国横断自動車道が通っています。その他にも「備前往来」、「津山道」、「誕生寺道」、「大原道」、「行者道」など様々な道が作られ、証人として道標が傍らにたたずみます。



写真31 大原宿古町の町並み

(2) 水の道

市内を流れる吉野川と支流である梶並川では古くから水運が行われていたことが、「筏津」などの地名などでわかります。市内最大の古墳である櫛原寺山古墳(前方後方墳)は、梶並川を望む高台に築かれています。梶並川支流の滝川流域である勝央町にも多くの前方後方墳が築かれており、河川交通による首長間の交流が考えられます。近世にはいると高瀬舟による水運が発達し、人や文物の交流が盛んとなり、集積場所であった現在の林野地区は、蔵が立ち並ぶことから「倉敷」と呼ばれていました。吉野川流域の福本地区、梶並流域の田殿地区も高瀬舟の河岸として多くの物資が行き交っていたことが、江戸時代後期に編纂された『作陽誌』に記されています。



写真32 旧中国銀行林野支店【市】
(美作歴史資料館)

ます。吉野川は、林野地区以北の通船願いが何度も出されましたが、許可を受けた通船も短期間で終了し、多くは許可を受けることはできませんでした。林野地区、福本地区には、高瀬舟により栄えた往時の様子が窺える建物が遺っています。

(3) 武(もののふ)の道

美作地方は武術が盛んであるため、「^{さくしゅう}作州で棒を振るな」と云われ、安易に自身の武力をひけらかすと痛い目に合うという意味とされています。本市には、^{たけのうちりゅうこぶじゅつ}竹内流古武術の遠祖の本拠地として、^{みやもと}竹内流古武術とのつながりが認められています。また^{たけのうちひさもり}剣聖宮本武蔵の生誕地として、宮本地区周辺には武蔵に関する伝承地などが遺っており、竹内流の創始者である^{おおうちたに}竹内久盛と宮本武蔵の父親^{むに}武仁との交流の伝承も伝わっています。^{そうどうしん}大内谷地区は少林寺拳法の創始者である宗道臣の生まれ故郷で、当市には稀代の武道家が脈々と生まれる武(もののふ)の道が通っていたとみることができます。



写真33 宮本武蔵 青年像